

# 今月の星空



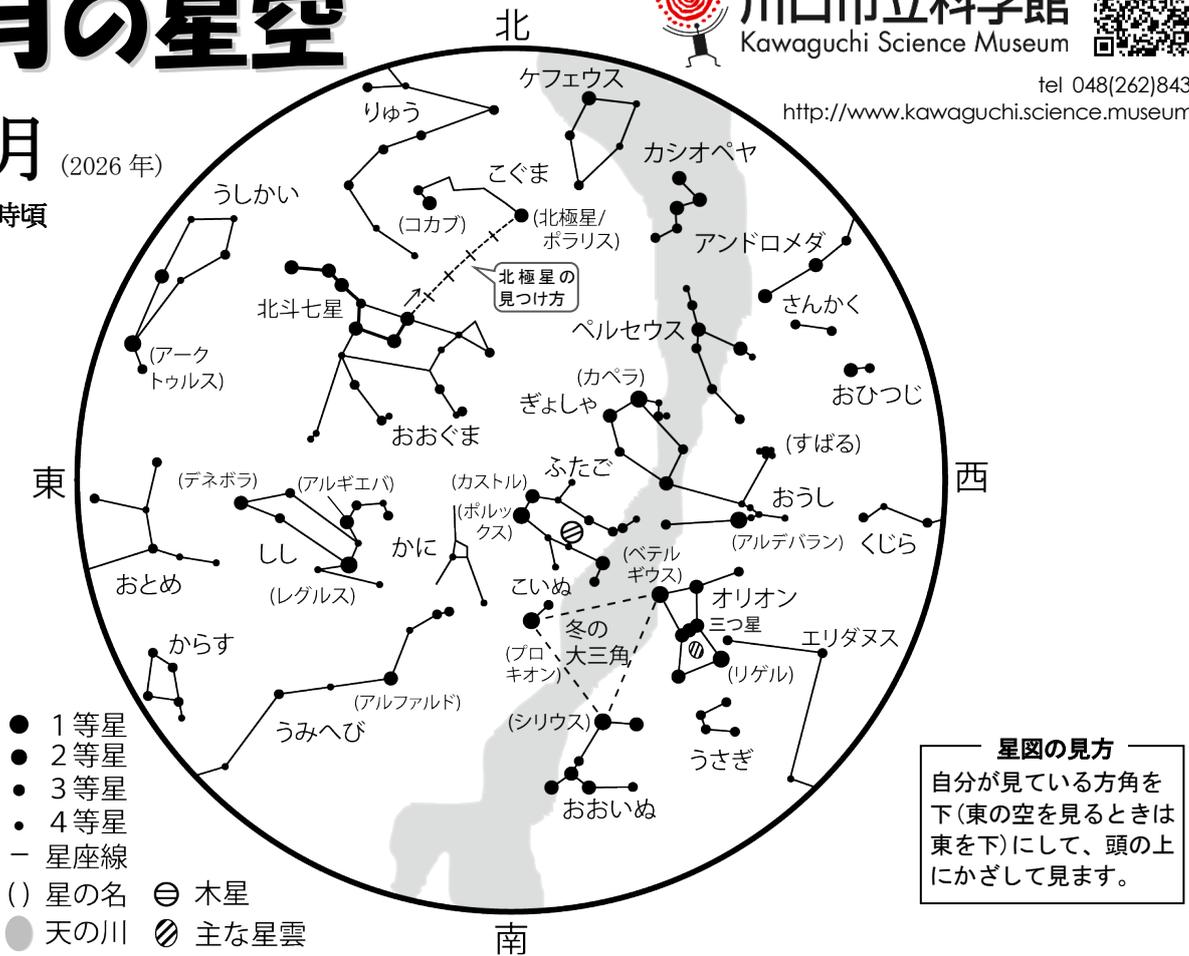
川口市立科学館  
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

3月 (2026年)  
中旬 20時頃



星図の見方  
自分が見ている方向を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。

月 齢 ○ 満月 3日、● 下弦 11日、● 新月 19日、● 上弦 26日

惑星情報 金星 日の入後 西(うお座 -4等) 木星 夜のはじめ頃 南から南西(ふたご座 -2等)

## ★星空の移り変わりと夕方の金星

20日は太陽が真東から昇り真西に沈む春分。昼と夜の長さが同じになる頃です。昼の太陽の高さ(南中高度)は約54度で、冬至(約31度)と夏至(約78度)の中間にまで達します。夜空では、これまで寒空の中で鋭い輝きを放っていた冬の星座は健在ですが、この時期特有の春霞と呼ばれるかすんだ空で見ると印象が変わるでしょう。また、東から、しし座、おおぐま座、うみへび座などの春の巨大星座たちが空高く昇ってきて、冬の星座を西に追いやるかのようです。まずは、しし座の1等星レグルスや北東に昇る北斗七星を見つけましょう。また、夕暮れどきの西の低空に、しばらくぶりに金星が見られるようになります。約-4等と非常に明るいため、夕方に見える金星は「宵の明星」、明け方に見える金星は「明けの明星」と呼ばれます。特に20日は、金星と月齢1.3の非常に細い月が並んで見えます。金星の高度はまだ低いので、日没後の空が明るいうちから西の空が開けたところで観察しましょう。

## ★3日、しし座で起こる好条件の皆既月食

月食は太陽-地球-月が一直線に並ぶとき、地球の影(太陽光が遮られてできる日かげ)の中に月が入る現象です。3日の皆既月食は、その一部始終が多くの方が見やすい時間帯に起こります。進行は右図のとおりです。観察のポイントは、皆既食のときに見られる月の色で、赤黒く見えます。これは、地球の影の中に地球大気を通り抜けたわずかな赤い光(太陽光)が入り込み、月を照らすためです。また、部分食のときに見られる欠けぎわの丸みからは地球の形を実感できます。

月食が起こる3日もその前日の2日も、月はしし座にあります。2日、20時半から21時半頃にかけて、月が1等星レグルスを隠す「レグルス食」が起こり、連日の「食」となります。地球から約38万km離れた月に落ちる地球の影、そして、約78光年の彼方にあるレグルスを隠す月、と最も身近な月から宇宙空間へと目を向けてみましょう。

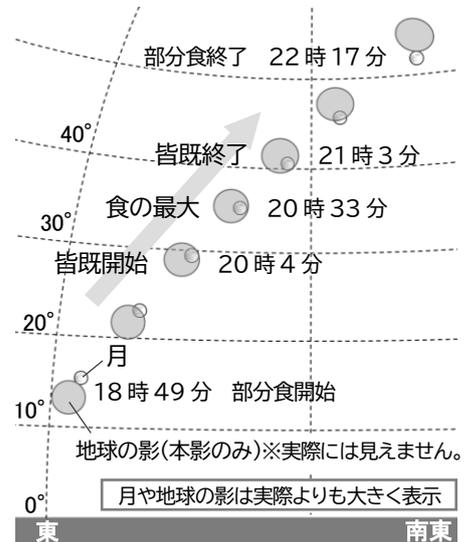


図 3月3日 皆既月食の進行  
(StellaNavigator/AstroArtsを基に作成)